

左季云证治实验录

左季云 著



中国医药科技出版社

新平解
船慶

PDG

左季云证治实验录

左季云 著

中国医药科技出版社

登记证号:(京)075 号

内 容 提 要

本书作者左季云老先生系我国较早成立的北平、国医学院名誉院长,并聘为两院的教授。左教授医技精湛,治病奇效,一生著书颇多。此书是他的精著之一。(全书共分两编。第一编包括中医理论和临床治验医案,如:别症变症、类伤寒辨、望诊、切诊、闻声、问诊——问寒热及头身、饮食、耳病、溺、妇科及儿科辨证;第二编,辨证纲要、治法、诊法、实验辨证大法、切脉夫要及诸病主要之表解等。)

图书在版编目(CIP)数据

左季云证治实验录/左季云著. — 北京:中国医药科技出版社, 1999. 1

ISBN 7-5067-1919-3.

I. 左… II. 左… III. 左季云—医案—汇编 IV. R249.6

中国版本图书馆 CIP 数据核字(98)第 22408 号

中国医药科技出版社 出版

(北京市海淀区文慧园北路甲 22 号)

(邮政编码 100088)

河北省满城县印刷厂 印刷

全国各地新华书店 经销

*

开本 850×1168mm¹/₃₂ 印张 7 7/8

字数 200 千字 印数 1—3000

1999 年 1 月第 1 版 1999 年 1 月第 1 次印刷

定价 18.00 元

序 言

我们的父亲左季云，四川江北县人，他熟读经书，精通文史，早年曾留学日本早稻田大学。毕业回国后，悟宦海之沉浮，遂弃仕途，认为“不为良相，当为良医”，自己又具有中医学的基础，于是挂牌以行医为职业。

父亲治学严谨，大部分精力从事于研究与教学工作。一生著述很多，约四五十部，达数百万字。手稿中，有些是已完成的著作，如《伤寒论类方法案汇参》、《杂病治疗大法》（金匱要略）等，其中一大部分治验录是父亲临床治验医案，有理论，有实践经验，又有施治全过程的详细记载。它凝聚着父亲一生为医学事业付出的心血，也说明他精湛的医学才能。这一大批医案的陆续问世，对祖国对后学者将有所贡献。还有数量不小的未定稿，如治心血管专论、中风、糖尿病、胃病、膨胀、吐泻、肠胃及妇科专论等有待整理。

父亲医术精湛，治病奇效，对病人认真负责。尽管当时他已是著名的中医了，但仍然夜以继日地进行研究和探索，治愈了无数濒临死亡的危重

病人,他以救死扶伤,济世回春为己任。

父亲热心中医教育事业,关心中医的继承与人才的培养。曾积极支持萧龙友、孔伯华、施今墨先生为培养中医人才而创办北平、华北国医学院,被授予北平国医学院名誉院长,又被聘为两学院的教授。他自己宁愿减少门诊出诊的收入,不要报酬在两学院义务讲授《伤寒论》与《病理学》(《金匱要略》)两门课程。

父亲还曾担任北平国医馆副馆长职务。

父亲积劳成疾,于1942年1月14日患脑溢血症病逝于北京。

历经半个世纪风云岁月的父亲遗作《左季云证治实验录》出版问世了,借此片纸衷心地感谢中国医药科技出版社及本书的责任编辑于素芝女士。

左季云先生之	长子	左学敖	共同整理
	次子	左川	
	长女	左燕君	
	次女	左永端	

目 录

第一编 杂病辨证诊治 (1)

第一章 别症变症 (1)

第一节 藏结 (1)

第二节 冷结 (2)

第三节 除中 (2)

第四节 伏气 (3)

第五节 晚发 (3)

第六节 瘕 (4)

第七节 湿 (4)

第八节 风湿 (5)

第九节 湿温 (5)

第十节 温毒 (6)

第十一节 喝 (6)

第十二节 阴毒 (6)

第十三节 阳毒 (7)

第十四节 温病 (7)

第十五节 热病 (7)

第十六节 两感 (7)

第十七节 风湿 (8)

第十八节 温疫 (8)

第十九节 脚气 (8)

第二十节 多眠 (8)

第二十一节 狐惑 (9)

第二十二节 百合 (9)

第二十三节 刺法 (9)

第二章 类伤寒辨	(11)
第三章 望诊	(17)
第一节 察形气.....	(17)
第二节 形.....	(17)
第三节 气.....	(18)
第四节 形脉合参.....	(18)
第五节 神关生死.....	(18)
第六节 生死在脉之有神无神.....	(18)
第七节 生死在形之有神无神.....	(19)
第八节 察五官.....	(20)
第九节 部分内应五脏.....	(20)
第十节 面部证候.....	(21)
第十一节 望五色.....	(21)
第十二节 五色见于面以审生死.....	(21)
第十三节 五色兼见面部之证候.....	(22)
第十四节 五色外见面部以审虚实生死.....	(22)
第十五节 面部证.....	(23)
第十六节 面黧黑.....	(24)
第十七节 望外感久病.....	(24)
第十八节 面垢与面肿治法.....	(25)
第十九节 验虫臖症法.....	(25)
第二十节 望舌.....	(25)
第二十一节 察舌部.....	(26)
第二十二节 诊舌之变态.....	(26)
第二十三节 察鼻部.....	(27)
第二十四节 鼻主寿夭说.....	(28)
第二十五节 鼻主病之起色.....	(28)
第二十六节 鼻以候证.....	(29)
第二十七节 望鼻之生死.....	(30)
第二十八节 鼻痒心辣阴虚伏热之医案.....	(30)
第二十九节 鼻准有汗.....	(30)
第三十节 察唇部之色.....	(31)

第三十一节	诊唇之五法·····	(31)
第三十二节	唇之候证·····	(31)
第三十三节	唇之死证·····	(32)
第三十四节	诊唇色各法·····	(32)
第三十五节	察口部·····	(34)
第三十六节	诊口部各法·····	(34)
第三十七节	口之死候·····	(35)
第三十八节	治口部药味·····	(35)
第三十九节	诊齿·····	(36)
第四十节	齿病之医案·····	(40)
第四十一节	牙齿部位列下·····	(41)
第四十二节	治牙总论·····	(42)
第四十三节	治牙总方·····	(42)
第四十四节	察耳部·····	(43)
第四十五节	耳聋治肺医案·····	(44)
第四十六节	耳之下垂曰命门之望色·····	(45)
第四十七节	察目部·····	(45)
第四章	闻声·····	(50)
第一节	听音论·····	(50)
第二节	音应五脏·····	(51)
第三节	音应六腑·····	(51)
第四节	闻字之义暨声诊·····	(52)
第五节	呼吸类·····	(53)
第六节	闻声之辨证·····	(54)
第七节	太息便秘胸次拒按医案·····	(57)
第八节	五噎·····	(58)
第九节	伤于情志之治法·····	(58)
第五章	问诊·····	(59)
一项:问寒热	·····	(59)
第一节	内症阴虚发热·····	(60)
第二节	内证实火发热·····	(60)
第三节	寒热表里辨·····	(61)

第四节	寒热之辨证	(61)
第五节	伤寒与伤暑寒热之证辨	(61)
第六节	产后之寒热	(62)
第七节	寒热之多寡	(62)
第八节	伤风发热	(62)
第九节	阴阳交错之寒热为死证	(62)
第十节	昼夜寒厥与烦热辨	(62)
第十一节	昼剧而寒阴上乘阳	(63)
第十二节	夜剧而热阳下陷阴	(64)
第十三节	夜剧昼静辨	(64)
第十四节	昼剧夜静辨	(66)
第十五节	正气虚之病夕加重	(66)
第十六节	湿热病午后发热	(66)
第十七节	内伤外感寒热辨	(67)
第十八节	饮食之喜寒热	(67)
第十九节	手掌冷热	(67)
第二十节	脏之五恶	(69)
二项:问头身		(69)
第一节	内伤外感头痛辨	(69)
第二节	内伤外感身痛辨证	(69)
第三节	头痛各症	(70)
第四节	额与眉棱俱痛治法	(71)
第五节	头痛各种治法	(72)
第六节	头项脊背腰膂腿诸痛辨治	(74)
第七节	各类之身痛	(74)
第八节	身重头痛之辨证	(74)
第九节	身痛有邪盛血虚之别	(76)
第十节	身痒之辨治	(76)
第十一节	身重与身痛不能转侧之区别	(77)
第十二节	头晕身重之医案	(77)
第十三节	手足太阳之辨证	(78)
第十四节	项强之证辨	(78)

第十五节	头胀痛属暑风袭肺之治法	(80)
第十六节	手稍稍冷之辨证	(80)
第十七节	手足瘫痪之证辨	(81)
第十八节	两足皮膜痛之治案	(81)
第十九节	腰脊肩背尻骨之痛	(81)
第二十节	肩背症各种治案	(83)
第二十一节	胫臂膝足各类之问法	(85)
第二十二节	鼻与咽之问法	(86)
第二十三节	心烦痛之问法	(86)
三项:问汗		(86)
四项:问胸		(91)
五项:问便		(98)
第六章	饮食之辨证	(104)
第一节	饮食之辨证	(104)
六项:问饮食		(104)
第二节	饮食之虚证辨	(105)
第三节	饮食之实证辨	(105)
第四节	喜热饮寒饮辨	(105)
第五节	五味喜食之辨证	(106)
第六节	口知味与否之辨证	(106)
第七节	五味之辨五脏热证	(107)
第八节	辨口之五味治案	(107)
第七章	耳病之辨证	(109)
第一节	聋之辨证	(109)
七项:问聋		(109)
第二节	耳鸣耳聋之问法	(110)
第三节	耳聋之治法	(110)
第四节	耳聋之治验	(110)
第五节	治耳以补肾为主	(113)
第六节	因外感而耳聋多属于热	(113)
第七节	治聋之因不一然皆属于热	(114)
第八节	精气俱足之耳聋	(114)

第九节 耳鸣之辨虚实法	(114)
第十节 高年耳聋	(115)
第十一节 高年耳聋之治法	(115)
第十二节 耳疮耳肿耳鸣耳痒之治法	(115)
第十三节 耳病之医案	(116)
第十四节 耳聋之药味	(116)
第八章 渴之辨证	(116)
八项:问渴	(116)
第一节 渴之证辨	(117)
第二节 渴饮冷热以辨证	(117)
第三节 渴之寒热虚实辨	(118)
第四节 干与渴之别	(118)
第五节 渴之治法	(118)
第六节 渴之虚实辨	(120)
第九章 妇科疾病之辨证	(121)
九项:问带	(121)
第一节 女科之问法	(122)
第二节 妇人经调与经闭之辨治	(122)
第三节 妇科症瘕辨	(122)
第四节 孕与气病辨	(122)
第五节 产后诸证辨	(122)
第六节 带下之主治药味	(123)
第七节 产后至夜即愈解	(123)
第八节 疝在肝经之问法	(123)
第十章 儿科疾病之辨证	(124)
十项:问儿科	(124)
第一节 小儿痘疹之辨据	(124)
第二节 问其素昔何如	(124)
第三节 问其旧病与因法	(125)
第四节 喜明与喜暗之辨证	(125)
第五节 睡之形向问法	(126)
第六节 夹气伤寒与劳力伤寒之辨证	(126)

第七节	五脏之应时辨证静甚法	(126)
第八节	病形之各种问法	(127)
第九节	眠卧之治法	(127)
第十节	附录:治脓耳各法	(128)
第十一章	切诊	(129)
第一节	脉法之辨	(129)
第二节	形色之辨	(129)
第三节	诊脉色以辨元气之盛衰	(130)
第四节	形气不足之医案	(130)
第五节	切诊脉法	(131)
第六节	湖南梁季良诊脉秘传	(135)
第二编	辨证纲要	(138)
第一章	六要	(138)
第一节	表证	(138)
第二节	里证	(145)
第三节	寒热	(146)
第四节	寒热真伪	(148)
第五节	虚实	(154)
第二章	治法	(157)
第三章	诊法	(161)
第一节	五脏	(161)
第二节	六腑	(174)
第三节	经气	(175)
第四章	实验辨证大法	(176)
第一节	各官之所主	(176)
第二节	三阳三阴	(176)
第三节	手三阴	(177)
第四节	足三阴	(177)
第五节	手三阳	(177)
第六节	足三阳	(178)
第七节	五窍之所开	(178)

第八节	稟气	(178)
第九节	五官之所属	(179)
第十节	五味	(179)
第十一节	五虚五实	(179)
第十二节	五胜五恶	(180)
第十三节	五劳	(180)
第十四节	五极	(180)
第十五节	五损	(181)
第十六节	五损五益	(181)
第十七节	五伤	(182)
第十八节	五郁	(182)
第十九节	诸泄	(182)
第二十节	五积	(183)
第二十一节	五痹	(183)
第二十二节	五疸	(184)
第二十三节	五饮	(184)
第二十四节	五噎	(185)
第二十五节	五膈	(185)
第二十六节	五轮	(185)
第二十七节	五癭	(185)
第二十八节	五脏六腑	(186)
第二十九节	六脱	(186)
第三十节	七极	(186)
第三十一节	五痔	(187)
第三十二节	五淋	(187)
第三十三节	三消	(187)
第三十四节	七疝	(187)
第三十五节	六瘤	(188)
第三十六节	六聚	(188)
第三十七节	八廓	(188)
第三十八节	九气	(188)
第三十九节	九种心痛	(189)

第四十节	得血之所能	(189)
第四十一节	寒热表里及恶风	(189)
第四十二节	肉病	(190)
第四十三节	三因	(190)
第四十四节	移寒各病	(190)
第四十五节	移热各病	(191)
第四十六节	气味之升降	(191)
第四十七节	气味之厚薄	(192)
第四十八节	七方	(192)
第四十九节	十剂	(193)
第五十节	屈伸缓急搐搦之病	(193)
第五十一节	四季所伤	(194)
第五十二节	昼夜观病轻重之要诀	(194)
第五十三节	火与水病	(195)
第五十四节	肺肾之观察	(195)
第五十五节	下夺因越与收法	(195)
第五十六节	健步与任重	(196)
第五十七节	厥证	(196)
第五十八节	寐寤	(196)
第五十九节	不寐	(196)
第六十节	贫富之观察	(197)
第六十一节	久病与新病	(198)
第六十二节	戒饮食调脾胃	(198)
第六十三节	开鬼门与法净腑	(198)
第六十四节	五脏与六腑不和	(198)
第六十五节	气病与血病	(199)
第六十六节	重阳与重阴	(199)
第六十七节	脱阳与脱阴	(199)
第六十八节	应法之家	(199)
第六十九节	风病各候	(200)
第七十节	六经见证	(200)
第七十一节	外治六法	(201)

第七十二节	四诊	(201)
第七十三节	惫坏脱各证之观察	(201)
第七十四节	诸病所属	(202)
第七十五节	营卫经络	(203)
第七十六节	魂魄	(203)
第七十七节	咽喉	(203)
第七十八节	闻声以辨肺肾脾胃之气	(204)
第七十九节	血筋气之所余	(204)
第八十节	五行与生克	(204)
第八十一节	泻吐	(205)
第八十二节	汗下与寒热	(205)
第五章	切脉大要	(205)
第一节	脉之三部	(205)
第二节	三部九候	(206)
第三节	寸关尺之所主	(206)
第四节	六脉之所出	(206)
第五节	四时之脉	(207)
第六节	息脉	(207)
第七节	死脉	(208)
第八节	五脏遇克之脉	(208)
第九节	五脏遇本藏所生之脉	(208)
第十节	男女脉之顺常	(209)
第十一节	阴阳所属	(209)
第十二节	人迎与气口辨证	(209)
第十三节	人迎气口互见紧盛暨大充	(210)
第十四节	六脉	(211)
第十五节	八要与八脉之对举	(211)
第十六节	诸脉之分八类	(212)
第十七节	脉分七表八里九通	(212)
第十八节	脉诊六死	(214)
第十九节	奇经八脉	(214)
第二十节	脉之宜与忌	(215)

第二十一节 产妇之诊察	(217)
第二十二节 内虚与妇女劳虚之脉	(217)
第二十三节 死证	(217)
第六章 诸病主药之表解	(219)
第一节 诸病有对待,药亦有对待	(232)
第二节 专主一证之要药	(234)